

# 新風

平成26年4月8日  
多治見市立陶都中学校  
No. 1

## 新入生182名を迎えて、平成26年度が始まりました。

多治見市立陶都中学校

校長 松山 央<sup>ひろし</sup>

桜の花びらが春風に舞い、正に春爛漫という季節になりました。

昨日は182名の新入生を迎え、いよいよ本日より、全校生徒577名と47名の教職員からなる平成26年度陶都中学校の本格的な始まりです。新入生の皆さん、入学おめでとう。在校生の皆さん、進級おめでとう。また、保護者の皆様には、お子様が新しい節目を無事終え、元気に新年度を出発されたことを、心からお喜び申し上げます。

さて、この度の異動で本校の教職員の顔ぶれも、少なからず入れ替わりました。校長の私も前任の加納から松山に替わりました。前任者同様、どうかよろしく願い申し上げます。こうして異動をし、新しい職場に臨む心境というものは、年を重ねても正直戸惑うことばかりです。まして、陶都中という伝統校に勤める者としての責任の重さもひしひしと感じます。ただ、新鮮な目で学校を見つめ直すよい機会でもあります。この学校報では、そうした私自身の目を見たその時その時の生徒の姿や学校が取り組もうとしていることをお伝えしていきたいと思えます。早速ですが、今回は、春休み中の学校の様子について触れさせていただきます。

4月1日のスタート以来、教職員による新学年の準備が急ピッチで進められてきました。4月3日は、今年度2回目の職員会議でした。それぞれの部会から新たなメンバーで確認された年間目標や当面の動きについて提案がなされ、全職員で共通理解を図っていきました。冒頭で出されたのが、生徒指導関係で、本年度の重点目標として「より高い価値に向かって語り、論し、実行させ切る」が打ち出されました。これは、これまでの陶都中の着実なる歩みを踏まえて、さらにより高い価値に必ずや登り詰めようという強い意識の現れであり、そのためにはきちんと生徒の心に入り込むことが大切であると、確認がなされました。生徒指導主事の次なる高みに向かわねばという強い意志が伝わってくるものでした。

翌4月4日は「掃除講習会」から始まりました。全学年の職員が頭覆いをして教室に集まり、実際の掃除の動きを身をもって体験するというもの。最初の集合の仕方から、整列・挨拶、そして教室を例にとつての細かな掃除の仕方、最後の終わり方まですべて実際にやってみました。そして、そこで気づいたことを出し合い、全員で確認していく。どの掃除場所でも同じ動きがとれるようにと、徹底



されます。最初から最後まで大変気合いの入った講習会

であり、大きな挨拶の声が校舎内に響き渡りました。次は、「学級開き研」。3つの学年に分かれ、それぞれの教室で、4月7日の最初の学級活動の交流がなされました。その日に渡す通信も持ち寄り、何をどのように訴えていくのかを話し合う学年、担任として実際に前に立って生徒役の教師に語り掛けてみる学年など、様々な工夫がなされていました。どちらにしても、生徒や保護者の方との最初の出会いがとても大切であり、何とかよりよいものにしようといった熱い思いがこもった研修会でした。

こうして、4月7日を迎えるべく、短い時間の中で準備を進めてきましたが、どうだったでしょうか。一段と若返った陶都中。熱い思いとパワーが売りです。至らぬ所もあろうかと思われそうですが、一枚岩の教師集団でしっかり子ども達と向かい合っていきたいと思っております。どうか宜しく願い致します。

